

第6回総合戦略策定検討委員会

要点記録

日時：平成28年2月1日（月）
午後18時00分～19時00分
会場：市役所3階 庁議室

次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) パブリックコメントの結果について
 - (2) 総合戦略（素案）の修正について
4. その他
5. 閉会

配布資料

- ・資料1 パブリックコメントの結果について
- ・資料2 総合戦略（素案）の修正について
- ・資料3 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略（2015改訂版）」の全体像

机上配布

- ・次第
- ・第5回会議要点記録（総合戦略策定検討委員会、総合戦略策定庁内検討委員会）

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）

委員・・・宗川敏克（昭島市商工会 事務局長）、長島剛（多摩信用金庫 価値創造事業部部長）、勝見真之（連合多摩中央・立川市職員労働組合）、齋藤久未（J:COM多摩 多摩局地域プロデューサー）、元木絵美子（公募市民）、中尾一博（公募市民）、永澤裕（公募市民）

※欠席（副委員長：飯田哲也（ハローワーク立川〔立川公共職業安定所〕職業相談部長））

事務局・・・企画部長、企画部企画政策課長、企画部企画政策課担当係長

コンサルタント・・・斎藤（株）サーベイリサーチセンター）

1. 開会

事務局・・・これより第6回総合戦略策定検討委員会を開催する。

○事務局より配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

委員長・・・昨年の検討を踏まえて、「総合戦略」がようやく形となってきた。パブリックコメントも実施されたこともあり、本日の委員会で最終確認をしていきたい。

昨年11月に第5回の庁内及び外部の両検討委員会が開催され、その後、庁内でさまざまな動きがあった。議題に入る前に、まずその報告をお願いしたい。

事務局・・・第5回の庁内、外部の両検討委員会後、12月15日（火）の全員協議会で、「総合戦略（素案）」の協議をした。その中で1人の議員から、合計特殊出生率の考え方の説明を求められ、この委員会で分析した結果を説明させていただいた。また出生率を高めるための具体的な事業展開を尋ねられたが、これについては個々の事業というよりは、基本目標1から4の基本的施策における事業展開を実施していく上で、総じて出生率を高めていくという趣旨の説明をした。それと最後に、策定後の検証方法への質問があったが、この「総合戦略」ではKPIの設定もしており、PDCAサイクルに基づく検証・見直しを行っていくと回答させていただいた。事務局としては、総体的に見て「あきしまらしさ」を表に出した戦略の策定に努めることができたという印象を持っている。その全員協議会を踏まえ、昨年12月21日（月）から本年1月22日（金）までパブリックコメントを実施した。その内容が本日の議題となっている。

3. 議題

（1）パブリックコメントの結果について

○事務局より資料1「パブリックコメントの結果について」の説明

事務局・・・提出はFAX、メール、郵便、持参にて各1名、都合4名から22項目に亘る意見が寄せられた。素案全般に対しては、概ね好意的な評価であったが、個々には、国の総合戦略や市の基本目標の考え方について確認を問う質問があった。加えて、各事業への具体的なアイデア等も寄せられたが、これらについてはこれまでの事業展開の中で、また「総合戦略」に位置付けた「具体的な施策・事業」における施策展開の中で参考にさせていただくといった内容で市の考え方をまとめている。そうしたことから、事務局及び庁内検討委員会としては、素案自体に大きく修正をかけるような意見・提案はなかったと確認したところである。

また、検討委員会に対する意見もいただいております。民主的な運営方法であるとか、活発な議論がされたといった評価に値する意見となっていたこともあわせて報告させていただきます。

委員長・・・国の総合戦略全体に対する意見もあれば、私どもの、戦略の全体像、または個々の事業等、さまざまなレベルでのコメントをいただいている。女性視点でのコメントが比較的多い印象を受ける。女性活用の視点が弱いという意見もあるが、元木委員としてはどうか。

- 元木委員・・・委員構成として9名中女性が2名しかいないという指摘も含め、言われてみればその通りだと思うこともあった。女性の視点という意味では、もう少し活発に意見を言うべきであったと反省もある。
- 委員長・・・意見は意見として真摯に受け止めた上で、その活用について、「総合戦略」自体も同様だが、今後の施策にどう反映していくかという点で、かなり参考になる意見をいただいている。私も目を通したが、総じて批判的な意見はほぼないようだ。
- 長島委員・・・パブリックコメントに意見を寄せた人が4名ということについてはどう見るか。
- 事務局・・・計画の分野によってバラつきは見られる。例えば介護保険事業計画等では市内の介護事業者関連の方からも多くの意見が寄せられる。今回は4名ではあったが、濃い内容の意見でそれぞれが多岐にわたって記述していただいたこともあり、22項目という点では、他のパブリックコメントと比較しても多くの意見をいただいたものと思っている。
- 長島委員・・・パブリックコメントという制度、手法自体に対する意見となるが、各市町村で「パブコメ」と呼ばれていて、私たちは当然その意味がわかるが、一般の人は「パブコメ」、「パブリックコメント」と言われてもよくわからないと思う。市民から意見を募集するというをより一層きちんと実施しないとしない時代に向かっていることから、やはり1桁では人数としては少ない。2桁程度までに持っていきたいところだが、何か工夫を凝らさない限り、今後も意見を寄せてくれる市民の増加は期待できないのではないか。
- 事務局・・・今、私どもでは「(仮称)教育福祉総合センター」のワークショップを行っているが、当然今後パブリックコメントを求めていく予定である。1つの手法として、パブリックコメントを求める前提で、市内の何ヶ所かで市民説明会を行って市の考え方を披瀝し、そこでの意見はその場で受けず、パブリックコメントで出してもらおうよう求めるという手法もある。近隣の例として、八王子市では医療刑務所移転後用地活用計画についてパブリックコメントをかけているが、その前段で市内5箇所で開催している。そのような手法も最近いくつか見られ、昭島市でも一部取り入れていきたいと考えている。
- 委員長・・・SNSが全盛の今、一方的に意見を尋ねること自体が時代遅れになってきているのかもしれない。誰かが発言した内容に対して、自分はどう思うかと、それが次々と書き込まれる状態になるかもしれないが、そうした意見の出し方が現代では主流になってきている。
- 事務局・・・もう1点、寄せられた意見を期間の途中で市のホームページに掲載するという手法もある。自治体によってパブリックコメントをかける期間はさまざまだが、およそ約1ヶ月程度である。どのような意見を出せば良いか迷ってしまう市民もいるので、募集期間中、途中経過で寄せられている意見を掲載し、参考にさせていただくというものである。今のパブリックコメントの制度の中でもまだ改善できる余地はあると思われる。
- 委員長・・・当然、パブリックコメントで意見を聞いて終わりということではなく、「総合戦略」が動き始めて、それがどう進んでいるのかということが情報発信されなければ、本当の意味で市民の声を聴いたことにはならないだろう。「総合戦略」の施策がどう

動いていくのか、情報をどう発信していくのかということは、今後の評価にもつながっていくので、進め方はよく考えていく必要がある。

(2) 総合戦略(素案)の修正について

○事務局より資料2「総合戦略(素案)の修正について」、資料3「まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』と『総合戦略(2015改訂版)』の全体像」の説明

委員長・・・修正点と言っても大きなものではなく、表記ミスであるとか、国の動向にあわせた表記変更といった程度である。今年は「総合戦略」が実際に動き始める年になる。国、あるいは他市の動向について長島委員にお聞きしたい。

長島委員・・・国としては、自治体がきちんと計画を立てて実行しなければお金は出さないという方向で動いている。各市町村が国、あるいは東京都にいろいろとトライしているが、厳しい状況にあるのが現状である。地方は再生計画を策定しているので、その前倒しで進めていこうという方針から事前に計画が多々つくられている。そのため国は、地方に対しては比較的緩めといった印象がある。しかし、多摩地域の市町村ではまだ余裕がある関係で、計画の具体的な施策がまだ出来きれていないという状況にある。それは昭島市に限らず他の市町村でも同様であるが、早急に国を納得させるものを示さないと、都会でも地方でもない多摩地域の1市町村にはお金も入らず、自分達で何とかしなさいということになってしまう。そうした強い危機感があるので、言い方は悪いが市役所に活を入れること、そして市民との連携・協働を速やかに実施していかないとまずいことになる。国の予算は、計画をしっかりと立て、それを実行に移せるところへ寄ってくる。多摩地区の中でもいくつかの市町村ではそうした申請も済んでいるところもあり、昭島市も遅れを取ってはならないと思う。

委員長・・・昭島市としての考えはどうか。

事務局・・・国の平成27年度の補正予算として、地方創生加速化交付金の制度がある。ただし、昨年の補正予算のときの先行型事業と違い、交付条件のハードルがかなり高くなっていると感じている。市としても加速化交付金については、国に相談する期間が設けられているので、相談をしながら加速化交付金の確保に努めていきたいと考えている。今後についてもKPIの指標等も設定していることから、個々の事業の検証を重ねる中で、より良い展開をしていくため、検証の見直し等も進めていく予定である。

委員長・・・ハードルが高くなっているというのは、どのような部分でのことか。

事務局・・・今、「総合戦略」が策定される中で、平成28年度の事業化は概ね検討されている。更にそれを加速するために、他市に先駆けて行う事業や各自治体の見本となるような事業、あるいは広域連携、政策間連携、地域人材の育成等、項目はかなり増えてきている。

委員長・・・確かに広域連携といった部分は求められるだろう。

それでは、これで「総合戦略(素案)」については当委員会では修正点も含めて、ほぼ確定できたと思われる。委員会としてはかなりのスピードで進めたものであるし、また庁内の動きにもあわせて動いていたので、タイトなスケジュールであったが、皆さんの協力もあってここまでたどり着けたと思っている。この委員会は本日

で終了だが、当然、今後は評価等も入ってくるので、引き続き見守っていきたい。せっかくなので、最後にお一人ずつ感想等をいただき、この議題を終了したい。それでは永澤委員から順番にお願いする。

永澤委員・・・国の目標としているものに地域の側が乗って実行していかないといけないということ、地方に対して自らの力で乗り切るよう言われているのはかなりきついと感じている。地方自治体は今後人口が減少し、少子高齢化していくのだから、今後は行政の力だけではなく、市民と協働し、官民一体という雰囲気をつくることができると良い。

中尾委員・・・このような委員会には初参加であったが、皆さんの意見を聞いたり、議論したりして、本当に参加できて良かったと思っている。私は公募の市民委員であるが、パブリックコメントからは、感じている想いは皆そう違わないのだと実感した。また、市民だからこそこれで終わるのではなく、今後も何らかの形で、この計画の実現に向けて関わっていきたいと考えている。

元木委員・・・このような機会に参加させていただき感謝したい。議論の中で学んでいくうちに、どこの地域であっても高齢者や女性の雇用問題を抱えていることがわかった。特にパブリックコメントにおいては、女性の雇用に対して気づかされたことや、市民の方も同様の想いを抱いていると改めて感じたのだが、それが委員会の中でうまく言葉として表せなかったことが悔やまれる。

それと、女性専用の雇用の窓口があると良い。例えば子育て支援課に、市内企業と連携のある独自の窓口が設置され、子育て中の女性の就労に関する希望が受け入れられると良いと感じた。

齋藤委員・・・私もこうした委員会に参加するのは初めてで、私に何ができるだろうかという心配があったが、これまでの経験から、意見を述べさせていただいた。お役に立てたら良いと思っている。また、委員会を通じて、さまざまな視点があることがわかり、勉強になったことは感謝申し上げたい。

先ほど「パブリックコメント」という言葉のわかりづらさの指摘があった。また「総合戦略」そのものも文字量が多く、一所懸命読まないで中身を理解できない部分が多い。弊社は地域メディアであることを活かして、そうした市民に伝わりづらいことを、わかりやすく発信できるような力になれば良いと思っている。よろしくお願ひしたい。

勝見委員・・・私もこのような場は初めてだったが、労働組合の代表としては、労働関係の話がさほどできなかったことが今回の反省点である。昭島市は企業城下町であり、大中小の企業がさまざまあるが、昭島市としてどのような形で就労支援ができるのかが大切となる。また、その就労も非正規ではなく、正規就労ができる限り増えてこそ、安心して結婚し、子育てできる環境が整う。ぜひとも私も今後さまざまところで関わっていけると良いと思っている。また、シティプロモーションの点でも、水を中心としたブランド構築がもっと全国的に展開していけると良い。そうすれば住みたいまちとして考えてくれる人も増えてくるだろう。

長島委員・・・私はこうした会議への参加経験はかなりあることから、昭島市が他市とは違うプラスとマイナスの感想をそれぞれ2つずつ申し上げたい。まず1つめ、「あきしまら

しき」という話がよく話題にあがったが、これは昭島市に限らず他市でも同様にそのまちらしきのことは話題に掲げている。それでは「あきしまらしき」とは何かと考えていたのだが、ここへきて私は他のまちで「あきしまらしき」を結構語るようになった。ここで議論させていただいて、なぜNPOが少ないのか、その理由がようやくわかったことをはじめ、いろいろと勉強になった。そうした発見があることがすごく良くて、昭島を好きになるのがわかるなと感じたところである。2つめは、庁内の他部署の方にお会いする機会もあるのだが、庁内の方々がこの「総合戦略」の内容をよく知っていると感じた。他の市町村では知らない方々も多いので、昭島市では庁内の行き渡りがきちんとしていると感じたところである。

一方、マイナスの話の1つめ、先ほど市民との協働という話があったが、私も同感である。三鷹市では、市民が茨城県の笠間市のことを好きになり、応援したいという市民たちが出てきた。私は先ほど調布市役所に訪問していて、そこでも同じ話をしているのだが、どうも多摩地域の東側の市町村に行くと、自分のまちのまちづくりはそろそろ良いところまで来ているので、次は他のまちの応援をしたいという市民が比較的多いと感じる。そうしたこともあり、笠間市長が三鷹市を訪れたり、企画部長・課長が市民の方々と議論する状況が始まっており、地方創生の広域連携として興味深い事例となっている。昭島市ではまだそこまでいっていないのだが、市民の方々と連携して行う姿はもっとあっても良いと思う。

マイナスの2つめ、計画策定後、次はどうするかという話が出てきている。今後計画のチェックをどう進めていくかという話、それと計画策定以降の具体的な施策・事業をどう考えるかという話がある。これは庁内にとどめず、市民の方々とも協働しながら考えていくことが望ましい。それを次のアクション・プログラムとして打ち出していくという方向性が、おそらく国からも求められている方向性だと考えると、ぜひ早めに取り組んでいきたいところである。それによって来年度以降の予算的な部分やさまざまな仕事の件もうまく流れていくと思われる。

宗川委員・・・私もこの委員会に参加させていただき、皆さんと大変良い話し合いができてありがたく感じている。自治体間の競争の時代のような中で、「あきしまらしき」という話もあった。私は昭島市に住んで60年で、市内のことはよく知っているつもりだったが、皆さんと議論する中で「あきしまらしき」の再確認ができて、非常に意義のある議論となった。

パブリックコメントについては意見を寄せた方が4人では少ないし、22項目に亘る意見ということであるが、私としては少ないと感じる。市ではさまざまな計画を策定する際にパブリックコメントをかけているが、それらの期間が他の計画同士で重なるようなことがあると、意見を寄せてくれる人も減少してしまうのではないかと。それと自治体間の競争の中で、昭島の水は市民の誇りでもあるし、セールスポイントでもあるが、それと同時に、M字曲線を解消するために、学童クラブ入所待機児童の減少を具体的に目標年度を掲げて示すことができると、水のことも含めて、より多くの方に昭島をアピールすることができると思う。

委員長・・・皆さんからそれぞれ感想をいただき感謝する。最後は私からになるが、この委員会を運営してきたこと1つは、この委員会は常に協力的であり、かつポジテ

ィブに議論できたことから、議事進行が円滑に進めやすかったということである。場によっては、批判的、否定的な委員の方もいて、まとまりがつかないこともあるが、なんとか良い「総合戦略」をつくろうと、皆一丸となることができたことが大きい。

この「総合戦略」は国から枠組みが下りてきて、それにあわせて地域が議論してつくっていくタイプのものである。そのため、画一的な計画になる懸念があった中で、「あきしまらしさ」とは中核企業であり、水であり、コミュニティが残っていること、そうしたことが議論し続けてきたことで見えてきた。それらはうまく計画の中に言葉としても、施策としても落とし込むことができたと感じている。私は産官学金の委員会にも参加しているのだが、こちらの委員会に参加して「あきしまらしさ」とは何かということがよくわかったので、ここで得た経験を活用できれば良いと思っている。この「総合戦略」は、前段に「人口ビジョン」があるように、基本的には定住人口をどう維持するか、どう増やすかという話が中心になる。先日の会議で、地方の自動車ディーラーの社長らが出席されたのだが、彼らにとっては、地域が消滅し、自分達の仕事が無くなってしまふかもしれないという危機的な状況下では、高齢者や若年者がどうということよりも、どうすれば地域が動きのある地域であり続けられるかということに関心がある。世代交代がしっかりとできて、地域が継続していくためにはどうしたら良いかということを考えている。従って、単純に人を集めればそれで良いというわけではなく、持続可能な地域をつくっていくために、どのような動きを地域の中で生み出していくのかという視点で考えていかないと、本当の意味での地域活性化にはつながらない。そうしたことから、この「総合戦略」は策定して終わりではなく、今後は実行していかなくてはいけない。市民が参加して、市民の手で動かしていかないと、ただの絵に描いた餅になってしまうおそれがある。私自身、今後とも昭島市には関わっていくと思うので、市の動向を見守りながら、皆さんと一緒におもしろい昭島をつくっていききたい。ぜひ今後ともよろしくお願ひしたい。

4. その他

事務局・・・今後の予定について説明する。本日で外部検討委員会は全6回の検討を終えた。パブリックコメントで市民の方からも意見いただき、それに対して市の考え方もまとめられたところである。今後は2月15日（月）に予定されている総務委員協議会でパブリックコメントの結果報告をさせていただく。あわせて、12月の全員協議会において、ご協議もいただいていることから、今回の報告を持って市の「総合戦略」としてまとめていく旨を議会に報告させていただく。そうした中で、「総合戦略」をとりまとめたこの検討委員会としても、委員会を代表して委員長から市長へ報告をしていただき、庁内での意思決定を行っていく予定である。その後、プレス発表等も想定した上で、一定の進行管理をしながら進めていきたい。

また、来年度以降の話であるが、市としても当然、計画を策定してはじめてスタートラインに立つと認識している。平成27年度から31年度までの5ヶ年の計画ということで、KPIも定めたところであり、目標ごとにも目標を定めているので、この

進捗状況について評価・検証していく必要があると考えている。従って、各団体からの代表者は推薦母体に改めて協力をお願いをしていくが、各委員においては引き続きご協力をお願いしたい。また、市民の意見も大変重要視しているので、推進委員会としての市民公募委員も改めて公募をかけていく予定である。

また、庁内においても事業の進捗状況を検証する中で、見直しを図っていく組織を設置する予定である。平成28年度以降も計画の推進と検証に引き続きご協力をよろしくお願いしたい。

5. 閉会

委員長・・・本当に短い期間だったので、事務局も大変だったと思う。お疲れ様でした。以上を持って「第6回総合戦略策定検討委員会」を終了する。皆さん本当にお疲れ様でした。